

自己評価・外部評価 評価表【巡回訪問サポートセンター三光園 2025年度】

(別紙1)

タイトル 番号	タイトル	番号目	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント	外部評価に 対するコメント
				実施状況						
				でき ている	ほぼ でき ている	でき てい ない こと が多 い	全く でき てい ない			
<b>I 構造評価 (Structure) [適切な事業運営]</b>										
<b>(1) 理念の明確化</b>										
①	サービスの特徴を踏まえた理念の明確化	1	当該サービスの特徴である「利用者等の在宅生活の継続」と「心身の機能の維持回復」を実現するため、事業所独自の理念を掲げている		○			その人らしい生活の維持向上を指標とし、利用者のQOLの向上を目指して職員が一丸となって日々努力をしている。	・基本理念、基本方針を分かりやすく掲示することができている。 ・利用者のその人らしい生活を維持するよう、スタッフが協力している姿勢がみられる。 ・事例検討を通じて、その様子がわかる。	
<b>(2) 適切な人材の育成</b>										
①	専門技術の向上のための取り組み	2	管理者と職員は、当該サービスの特徴および事業所の理念について、その内容を十分に認識している		○			管理者および職員に対し、定期巡回サービスの目的や事業所理念についての周知を図っているが、今後も継続的な周知・教育を行っていく必要がある。	・管理者だけでなく職員も目的や理念を理解している。 ・職員の入れ替わり等もあるため、今後も継続して理念の周知や教育を行う事は必要である。	
		3	運営者は、専門技術（アセスメント、随時対応時のオペレーターの判断能力など）の向上のため、職員を育成するための具体的な仕組みの構築や、法人内外の研修を受ける機会等を確保している		○			アセスメント能力や随時対応時の判断力向上を目的とし、法人内研修や外部研修への参加機会を個別に確保している。	・年間計画に沿って研修ができていると考える。また、訪問時に利用者の些細な変化があった場合のアセスメントや判断もできていると考える。 ・ZOOMによる研修も可能であるので、研修はしやすい環境になったと考える。	
		4	管理者は、サービス提供時の職員の配置等を検討する際、職員の能力が最大限に発揮され、能力開発が促されるよう配慮している		○			サービス提供時には、職員の経験や能力を踏まえた人員配置を行い、OJTを通じた育成にも配慮している。	・管理者は最大限努力され、職員の能力が発揮されるように頑張っている。 ・利用者さんのサービスに応じた職員配置ができている。	
②	介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保	5	介護職・看護職の間で、利用者等の特性・状況に係る相互の理解・認識の共有のための機会が、十分に確保されている	○				介護職と看護職の連携については、日々の情報共有や必要時の相談を通じて相互理解の促進に努めている。	・介護、看護共に連携は図れている。 ・利用者さんの些細な変化でも連絡があり助かっている。医療、介護での情報共有は十分にできている。 ・事例検討での内容を踏まえても、介護と看護の連携は取れていると考える。	

自己評価・外部評価 評価表【巡回訪問サポートセンター三光園 2025年度】

(別紙1)

タイトル 番号	タイトル	番号 項目	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント	外部評価に 対するコメント
				実施状況						
				でき ている	ほぼ でき ている	でき てい ない こと が多 い	全く でき てい ない			
(3) 適切な組織体制の構築										
①	組織マネジメントの取り組み	6	利用者等の特性に応じた柔軟なサービスを提供するため、最適且つ柔軟な人材配置（業務・シフトの工夫）を行っている		○			利用者の状態やニーズに応じて、シフト調整や役割分担の見直しを行い、柔軟な人員配置に努めている。今後は更なる効率化と安定した体制構築が課題である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者さんの状態に合わせ、適切な職員配置ができています。</li> <li>・管理者やサービス計画責任者が十分に考え、人材配置を行っている。</li> <li>・状況に合わせてフレキシブルに対応している。</li> </ul>	
②	介護・医療連携推進会議で得られた意見等の適切な反映	7	介護・医療連携推進会議を適時適切に開催すると共に、得られた要望、助言等（サービスの過少供給に対する指摘、改善策の提案等）を、サービスの提供等に適切に反映させている		○			介護・医療連携推進会議を定期的に開催し、いただいた意見や助言については、可能な範囲でサービス内容へ反映している。今後はより具体的な改善への活用を強化していく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議にて問題点等適切に対応し、改善・解決に向け意見交換ができています。</li> <li>・毎回適切に会議が開催されており、可能な限りサービス内容に反映できている。</li> </ul>	
(4) 適切な情報提供・共有のための基盤整備										
①	利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備	8	利用者等の状況について、（個人情報管理に配慮した上で）必要に応じて関係者間で迅速に共有できるよう工夫されている		○			利用者の状態変化については、記録や申し送り等を通じて情報共有を図っている。関係職種間でも必要に応じて情報共有を行っているが、より迅速かつ確実な共有体制の整備が課題である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマケア等、利用者さんの個人情報を含め状況把握のための環境は整えられている。</li> <li>・状態に変化があった場合には電話で迅速に報告がある。</li> </ul>	
(5) 安全管理の徹底										
①	職員の安全管理	9	サービス提供に係る職員の安全確保や災害時の緊急体制の構築等のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている（交通安全、夜間訪問時の防犯対策、災害時対応等）		○			夜間訪問時の安全確保や緊急時対応についてオンコール体制を取っている。今後は災害時対応や防犯対策を含め、より実効性の高い体制整備を進めていく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全確保はできている。災害対策は平時の備えが重要であると考えている。</li> <li>・緊急時の対策や避難訓練の開催についても、今後の運営推進会議で報告しても良いと考える。</li> </ul>	
②	利用者等に係る安全管理	10	事業所において、利用者等に係る個人情報の適切な取り扱いと保護についての具体的な工夫が講じられているとともに、管理者や職員において共有されている		○			個人情報の取り扱いについては、職員への周知と適切な管理に努めている。引き続き意識向上と管理体制の強化が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報の取り扱い（管理）は適切に行われている。</li> </ul>	

自己評価・外部評価 評価表【巡回訪問サポートセンター三光園 2025年度】

(別紙1)

タイトル 番号	タイトル	番号 項目	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント	外部評価に 対するコメント
				実施状況						
				でき ている	ほぼ でき ている	でき てい ない こと が多 い	全く でき てい ない			
<b>II 過程評価 (Process)</b>										
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供										
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成										
①	利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からのアセスメントの実施	11	利用者等の一日の生活リズムに着目した、アセスメントが提案されている	○				利用者の生活リズムを踏まえたアセスメントを行い、日常生活に沿った支援に努めている。	・利用者さんの個別性を捉えたアセスメントができており、支援にも反映されている。	
		12	介護・看護の両面からのアセスメントが適切に実施され、両者の共有、つき合わせ等が行われている	○				介護・看護の両面からの情報共有を行いながらアセスメントを実施している	・スマケアの利用にて情報共有ができています。 ・些細な変化でも連絡があり、情報共有ができています。	
②	利用者の心身の機能の維持回復や在宅生活の継続に軸足を置いた「未来志向型」の計画の作成	13	利用者の心身機能の維持回復に軸足を置いた計画の作成が志向されている		○			利用者の心身機能の維持回復を意識した計画作成に努めている。今後はより具体的な目標設定の充実が課題である。	・利用者さんの自立支援に向けた計画作成になっている。 ・維持回復に向けて計画作成ができています。	
		14	重度化しても医療依存度を高め過ぎないように、利用者の今後の変化を予測し、先を見越した適切なリスク管理を実現するための、「未来志向型」の計画の作成が志向されている		○			状態変化を予測した計画作成に努めているが、個別性の高い計画の充実については今後の課題である。		
(2) 利用者等の状況変化への柔軟な対応と計画の見直し										
①	計画上のサービス提供日時に限定されない、必要に応じた柔軟な定期巡回サービスの提供	15	計画上のサービス提供日時以外であっても、利用者等の状況に変化が生じた場合は、必要に応じて新たに定期巡回・随時対応サービスの提供日時を設定するなど、柔軟な運営に努めている	○				利用者の状況変化に応じて訪問時間や回数の調整を行い、柔軟な対応に努めている。	・利用者さんの体調や状況に合わせて、柔軟な対応ができていますと考える。	
②	継続したモニタリングを通じた利用者等の状況変化の早期把握と、計画への適宜反映	16	サービス提供を通じた、継続的なモニタリングによる、利用者等の状況変化の早期把握と、計画への適宜反映が行われている	○				日々のサービス提供を通じて状況把握に努め、必要に応じて計画への反映を行っている。	・訪問後のモニタリング記録は適切に実施できており、計画への反映もできています。	

自己評価・外部評価 評価表【巡回訪問サポートセンター三光園 2025年度】

(別紙1)

タイトル 番号	タイトル	番号目	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント	外部評価に 対するコメント
				実施状況						
				でき ている	ほぼ でき ている	でき てい ない こと が多 い	全く でき てい ない			
(3) 介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供										
①	介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供	17	より効率的・効果的なサービス提供を実現するため、介護職、看護職のそれぞれの専門性を活かした役割分担が行われている	○				看護、介護の観点を共有し適切なサービスを提供できている。	・それぞれの専門性を的確に認識し、さらに専門性を生かした柔軟なサービス提供ができている。	
②	看護職によるサービス提供に関する指導、助言	18	看護職から介護職に対し、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、指導、助言が行われている	○				看護職からの助言や指導を受けながらケアに反映している。	・必要時は電話連絡で対応できている。 ・事例検討の際も、看護職へ適切な支援のアドバイスを求められる。支援に生かす姿勢があり、対応できていると考える。	
(4) 利用者等との情報及び意識の共有										
①	利用者等に対する当該サービスの趣旨及び特徴等についての十分な情報提供	19	サービスの開始前に、利用者等に本サービスが「利用者等の在宅生活の継続」と「心身の機能の維持回復」を実現するためのサービスであり、訪問サービスは、その趣旨に沿って行われるアセスメントに基づき提供されることについて、十分な情報提供・説明が行われている		○			サービス開始時に内容や目的について説明を行っている。理解度に差が見られるため、より分かりやすい説明が必要な場合もある。	・サービス開始前に、契約や重要事項説明書を取り交わしている。その際の十分な説明と、アセスメントも行われている。	
②	利用者等との目標及び計画の共有と、適時適切な情報の提供	20	作成した計画の目標及びその内容について、利用者等に十分な説明を行うなど、共通の認識を得るための努力がされている		○			計画内容について利用者・又は家族への説明を行い、共有に努めている。	・利用者さんや家族に説明できている。今後も、体調や状況に変化があった場合、適宜追加説明は必要であると考える。 ・計画は、ケアマネージャーの計画に基づいている。連携、協力しながら努力していると考えている。	
		21	利用者の状況の変化や、それに伴うサービス提供の変化等について、家族等への適時・適切な報告・相談等が行われている	○				状態変化時には家族へ報告・相談を行っている。	・報告、連絡、相談が徹底されている。	

自己評価・外部評価 評価表【巡回訪問サポートセンター三光園 2025年度】

(別紙1)

タイトル 番号	タイトル	番号目	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント	外部評価に 対するコメント
				実施状況						
				でき ている	ほぼ でき ている	でき てい ない こと が多 い	全く でき てい ない			
2. 多職種連携に基づいた包括的・継続的マネジメント										
(1) 共同ケアマネジメントの実践										
①	利用者等の状況の変化についての、ケアマネジャーとの適切な情報共有及びケアプランへの積極的な提案	22	ケアマネジャーとの間で、利用者へのサービス提供状況、心身の機能の変化、周辺環境の変化等に係る情報が共有され、サービスの提供日時等が共同で決められている	○				ケアマネジャーとの情報共有を行いながらサービス提供を行っている。	・担当者会議だけではなく、必要時は適宜情報共有ができています。	
		23	計画の目標達成のために必要に応じて、ケアプランへの積極的な提案(地域内のフォーマル・インフォーマルサービスの活用等を含む)が行われている		○			必要に応じてケアプランへの提案を行っているが、更なる積極性が求められる。	・必要に応じて提案ができています。 ・難しいと思うが、今後フォーマルサービスだけではなく、インフォーマルサービスの提案や提供、さらなる強化が望ましい。	
②	定期的なアセスメント結果や目標の達成状況等に関する、多職種への積極的な情報提供	24	サービス担当者会議等の場を通じて、利用者等の状況や計画目標の達成状況について、多職種への情報提供が行われている	○				担当者会議等を通じて情報共有、意見交換を行っている。	・担当者会議やスマケアを通して、多職種との情報共有はできています。	
(2) 多職種連携を通じた包括的・継続的マネジメントへの貢献										
①	利用者の在宅生活の継続に必要な、利用者等に対する包括的なサポートについての、多職種による検討	25	利用者の在宅生活の継続に必要な、包括的なサポート(保険外サービス)インフォーマルケア等の活用を含む)について必要に応じて多職種による検討が行われている(※任意評価項目)		○			必要に応じて多職種での検討を行っているが、更なるインフォーマルサービスの活用は今後の課題である。	・インフォーマルサービスの追加強化が望ましいと考える。	
		26	病院・施設への入院・入所、及び病院・施設からの退院・退所の際などに、切れ目のない介護・看護サービスを提供するために必要に応じて多職種による検討や情報の共有が行われている(※任意評価項目)		○			入退院時には関係機関と連携し情報共有を行っている。	・在宅困難や医療面での介入が必要な場合は、ケアマネジャーに連絡し情報共有ができています。 ・退院前のカンファレンスに参加し、切れ目のないサービスが行えている。	
②	多職種による効果的な役割分担及び連携に係る検討と、必要に応じた関係者等への積極的な提案	27	地域における利用者の在宅生活の継続に必要な、包括的なサポート体制を構築するため、多職種による効果的な役割分担や連携方策等について検討し共有がされている(※任意評価項目)			○		多職種との連携を図りながら支援を行っているが、地域全体での体制構築は今後の課題である。	・多職種連携はできている。今後は医療との連携(特に病院)が課題であると考えている。	

自己評価・外部評価 評価表【巡回訪問サポートセンター三光園 2025年度】

(別紙1)

タイトル 番号	タイトル	番号 項目	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント	外部評価に 対するコメント
				実施状況						
				でき ている	ほぼ でき ている	でき てい ない こと が多 い	全く でき てい ない			
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画										
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案										
①	介護・医療連携推進会議の記録や、サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信	28	介護・医療連携推進会議の記録について誰でも見ることのできるような方法での情報発信が、迅速に行われている		○			会議記録等の情報発信に努めているが、より分かりやすい形での公開方法について検討が必要である。	・情報発信はできている。 ・三光園のホームページ等に、PDFファイル等で情報公開しても良いのではと考える。	
		29	当該サービスの概要や効果等についての地域における正しい理解を広めるため、積極的な広報周知が行われている			○		サービス内容の周知に努めているが、地域への浸透については今後の課題である。	・中津市の高齢者人口は増加傾向にある。積極的な広報周知は必要である。 ・訪問による宣伝も大変なので、SNS発信でもよいのではないかと考える。	
(2) まちづくりへの参画										
①	行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解	30	行政が介護保険事業計画等で掲げている地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について十分に理解している		○			地域包括ケアシステムの考え方について理解を深めながら運営している。今後も継続した理解促進が必要である。	・地域包括ケアシステムの方針や計画内容は理解できている。また、理解が深まるような体制ができている。	
②	サービス提供における、地域への展開	31	サービスの提供エリアについて、特定の建物等に限定せず、地域へ広く展開していくことが志向されている		○			地域へのサービス展開を意識しているが、実際の利用拡大については課題が残る。	・三光在住の利用者対応をしていると聞いているが、緊急時の駆け付け等を考えると限度があるように感じる。 ・職員数や移動距離の問題から、過疎地への訪問は難しいだろうが、ニーズはあると考える。	
③	安心して暮らせるまちづくりに向けた、積極的な課題提起、改善策の提案等	32	当該サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、介護・看護の観点からまちづくりに係る問題認識を広い関係者間で共有し必要に応じて具体的な課題提起、改善策の提案等(保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等)が行われている(※任意評価項目)							
III 結果評価 (Outcome)										
①	サービス導入後の利用者の変化	33	サービスの導入により、利用者ごとの計画目標の達成が図られている		○			個別の目標に沿った支援を行い、一定の成果は見られている。	・目標に沿った計画、支援が行われ、成果は出ている。	
②	在宅生活の継続に対する安心感	34	サービスの導入により、利用者等において、在宅生活の継続に対する安心感が得られている		○			サービス提供により在宅生活の安心感の向上に寄与していると考えられる。今後も継続した支援が必要である。	・訪問した際、利用者さんから毎日来てくれてあんなに安心できるという声が聞かれている。 ・在宅サービスの提供があるからこそ、安定した在宅での生活が遅れている。	